

地域おこし協力隊 奮闘記 Vol.22

今月は
教田佳奈が
書いています



大山町の魅力を伝えよう

早いもので、私が地域おこし協力隊の活動を始めて2年が過ぎようとしています。日々、たくさんの方と出会い、チャンスをおいただきながら活動しています。

その中でも、昨年から中山小学校と名和小学校の子どもたちに授業をする機会がありました。

小学6年生の国語の教科書に、まちづくりのお話が教材となっており、ゲストティーチャーとしての依頼でした。とても印象深かったので、名和小学校での様子をご紹介します。



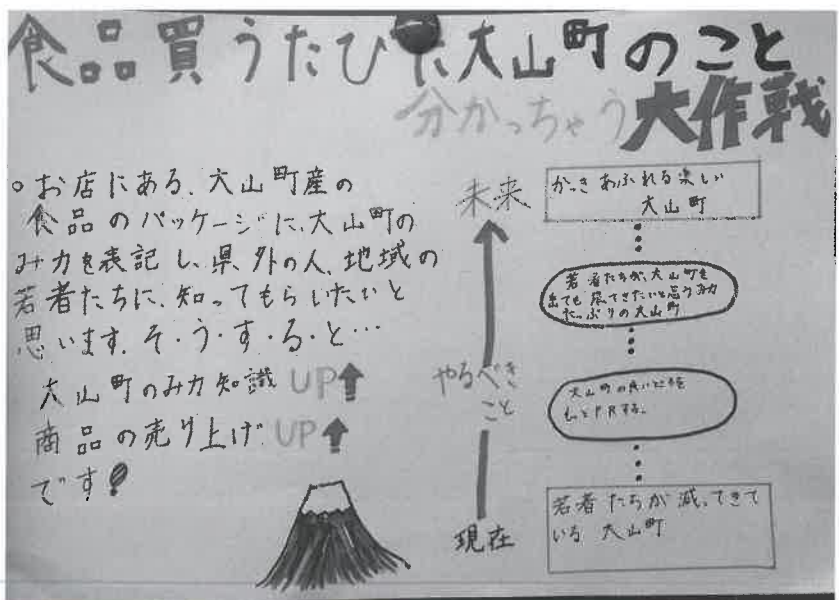
▲授業風景

名和小学校では「町外に出た若者が帰ってきたいと思う町」をテーマに、ワークショップ形式で大山町の課題や解決方法をグループに分かれて話し合いました。

私は、せっかく関わるのなら、ただ解決方法を考えたり、討論したりするだけでなく、実際にその企画を実行したいと思いました。そして、各グループが自分たちに何ができるかを企画にまとめ、プレゼンテーションし、その中のグランプリの企画を実行に移すことにしました。

話し合いでは「楽しい町、素敵な町だと知っていたらずっと住み続けたいと思うし、帰ってきたいと思うのではないか」「地元の人や観光客にも、町の魅力を知ってもらおう」「もつと町のことをPRをするべき」という意見が子どもたちから多く出ました。

話し合った意見をもとに、各グループが企画の発表を行



▲グランプリの企画

いました。その結果、見事グランプリに輝いたのは、名付けて「買うたびに大山町のこと分かつちゃう大作戦!」。

その内容は、道の駅などで販売する野菜に大山町の魅力を書いたシールを貼り、購入者に大山町の魅力が伝わるようにするというものでした。実施に向けてシールに記す内容を決めるなど、子どもたちが慌ただしく動き始めまし

ました。そしていよいよその日がやってきました。小学生が企画した「魅力シール」の商品を販売するキャンペーンは3月13日〜19日までの期間限定、道の駅大山恵みの里とみくりや市で展開します。

小学生が思う大山町の魅力とは?ぜひとも商品を手にとってみてください。